

川魚に夢中

2016年10月5日 横林寛昉

幼年期、時間さえあれば川に出て魚を捕っていた。社会人になってからも、実家(兵庫県たつの市新宮町)に帰ると、サワガニ、スジエビ、オイカワ、カワモツ、タブナなどを捕っている。法事で実家に帰って法事最中に居ないと川に居るし、今も帰郷する度に実家近くに住んでいる従弟を魚捕りに誘っている。

社会人になってからも、滋賀県で工場建設を担当していた頃、工場排水で土壌を汚染するからと、琵琶湖の漁師の子弟を従業員に雇用し、夏は海水パンツになって、琵琶湖に潜り魚手つかみ大会を数回実施したが、ウナギ、大きなコイやフナなどをつかみ何時も優勝していた。

東京に住んでいた頃、メダカやタブナを飼おうと庭に2つの小川を作ったが、最初から難度の高いホタルに挑戦したところ、千葉県に引き超す迄の13年間自宅で毎年ホタルの舞が観られ、孫達の同級生やパパ・ママ、知識人達が毎年30名～40名見学され、地方新聞にも紹介されていた。

仕事から一線を離れ、趣味を生かそうと川魚に夢中になり室内で飼っていたが、餌やりで軽井沢へ長期に行けない事と室内は湿度が抜けないので、屋外のデッドスペースを利用して水槽の棚を大工さんをお願いし、並行して知り合いが電気工事、浄化槽のポンプを利用してエア配管と各酸素注入工事を協力して頂き、水槽60×45×30cmが20個程置ける棚と屋根が出来上がった。現在は、15個の水槽で楽しんでいる。魚達は、留守中庭管理の方に餌を与えてもらい、自然体の生活が出来るようになった。

水槽を大別すると、琵琶湖産・秋田産・伊豆沼産のノーマルカネヒラとイエローカネヒラ、地元産タナゴの産卵に成功、霞ヶ浦産・手賀沼産・鹿沼産のタナゴ・メダカ、白井産のオイカワ、カワムツ、クチブツ、地元産のカラマツ・ヨシノボリ・ホトケドジョウ・シマドジョウ・スジエビ、私だけが保有している紅色モツゴなど元気に生存している。既に、タナゴの初産卵に成功し、カネヒラの産卵が難しいとされているが、北海道から真珠貝(通称カラスガイ)を取り寄せ、秋にカネヒラが真珠貝に産卵し、来春20℃の水温で真珠貝から稚児が生まれる。願いは、この真珠貝が長期に生きているか、真珠貝に産み付けた卵が来春迄育っているか、初めての経験と未知のカネヒラ(雌に卵管が出ている)の産卵に挑戦している。



水槽の全貌×15個



ノーマルカネヒラ



イエローカネヒラ



琵琶湖産・伊豆産カネヒラ



タナゴの稚児×約70匹



真珠貝(カラス貝)

当面は、カネヒラの初産卵に取り組み、時間を見つけて手賀沼産・霞ヶ浦産・鹿沼産の天然タナゴ捕りや伊豆産(宮城県)のカネヒラ及び珍しい川魚を増やしたいと新天地を求めて魚捕りを楽しんでいる。

一命をつなぐ

追 2017年7月1日

現在は、幅 60 cm の水槽 20 個有しているが、気温が暖かくなると 1 週間で水槽の水が濁る。この水槽の掃除は 1 日 4 個だから 20 個に 5 日間要し、毎日水槽管理をしていることになる。

先日、家内が実家に帰省している留守中に、水槽管理で狭い水槽置場に嵌り、身動き出来なくなり携帯電話で SOS を求め、90 分のモガキから助けられた。立つと倒れまた立つと倒れを 3, 4 回の記憶があり、砂利道に 60 分仰向けになっていた。この現象を友達から知らされた家内は、次男の嫁に電話をして彼女の計らいから救急車で入院した。入院したのが 18:00 頃で、MRI、CT、X 線を終えたのが 21:00 異常無いから帰宅しようとしたところ、頭を打っているかも知れないと病院側から強く勧められ 1 週間入院をした。体と顔は傷だらけになり、痛々かったが退院後数日で傷はほぼ治った。退院 10 日後の診察結果も問題が無く、病院の再来は無く卒業した。もし、SOS が出来ていなかったら、気を失い誰も居ない所で、そのまま帰らぬ人になり大変な事となり、携帯(SOS)のお蔭で九死に一生を得た。事故が起きた時は、体力が消耗しており疲労困憊であった。

この事件を機に、水槽の数を 20 個から 14 個(魚は現在約 2000 匹)に減らし将来は水槽 10 個の管理にする所存。従って、知人に魚を差し上げ、従来の仕事量の 60% に減らしている。毎日仕事量の大半は水槽管理であり、水槽の数を減らす事と共に水の汚れ防止策に成功し、珍種魚を揃えるべく質の向上に努めている。

最近では、秋田県仙北地方の湧水に生存している氷河期の絶滅危惧種イバラトミオ(属名ハリザッコ)、前記の通り一般人では私しか所有していない紅色モツゴ、茨城県と福島県の県境の久慈川で捕ってきた鮎の成魚に続いてシロヒレタビレ、アカヒレタビレ、ヤリタナゴ等が仲間に加わり、秋迄に確保する予定のプラチナカネヒラ、近く絶滅危惧種になると言われて入手が極めて難しいゼニタナゴを取り寄せたいと考えている。



イバラトミオ



紅色モツゴ



久慈川の鮎



シロヒレタビレ



アカヒレタビレ



オイカワとカワムツ

カネヒラは前記の如く、秋に 2 枚貝に産卵し翌春に稚児が生まれるから、その貝が翌春迄生きていないと難しい。そこで、生命力の強い真珠貝(別名:カラスガイ)を北海道から取り寄せた。知り合いからは、カネヒラの産卵は難しいと聞かされていたが、イエローカネヒラの稚児×約 30 匹、ノーマルカネヒラの稚児×5 匹(事故の時、水槽を移し替えようとして水槽から水が出て死んでしまった)誕生している。

また、高価なシロヒレタビレは 10 匹購入し 1 週間で全滅し、続いて 10 匹購入したが全匹死んだ。同じく高価なアカヒレタビレも 10 匹購入し 1 週間で全匹死に、直ぐに 10 匹購入したが 1 週間で全滅。これらの魚は、1 週間の短命であったが、子孫を残す生命力からシロヒレタビレ×約 30 匹、アカヒレタビレ×約 20 匹の稚児が誕生している。その他、地元産タナゴの産卵に成功した。高価な淡水魚は、直ぐ死んでしまうが、稚児を育てて長生きさせようと購入中心から稚児の育成に切り替えている。